

で再燃した2例はRVRを達成し、SMV群で再燃した6例中4例でもRVRを達成していた。SOCと比較してRVRとの相関性はやや乏しい印象であり、IL28Bや前治療の成績が治療効果を予測するうえで、より重要な因子であると考えられた。IL28B minor症例では、SOCを先行し、その反応を確認してからのDAA投与が望ましいかもしれない。

9 Simeprevir3剤併用療法においてSF-36によるQOL評価からIFN-βに切り替え治療を完遂した2症例

大橋 和貴

済生会新潟第二病院看護部

【緒言】Simeprevir 3剤併用療法中にうつ症状をきたし、IFN-βへの変更でうつ症状が改善、治療を完遂し、SVRが得られた2例をSF-36の変動を含め報告する。

〔症例1〕6X歳女性、Peg-IFN/RBV再燃例、治療開始4週でHCV RNA陰性化。20週頃よりうつ症状が出現し、Peg-IFN-αからIFN-βへ変更。変更後1週でSF-36の精神的健康に関連した日常役割機能、心の健康は改善傾向を示しうつ症状も消失。治療を完遂し、SVRが得られた。

〔症例2〕5X歳男性、初回治療、治療開始後6週でHCV RNA陰性化。22週頃よりうつ症状が出現。症例1同様にIFN-βへ変更。変更後1週では心の健康のみの改善であったが、うつ症状は消失。治療継続が可能となり、SVRが得られた。

【考察】C型慢性肝炎1型高ウイルス量患者において3剤併用療法中にうつ症状が出現した場合、IFN-βへの切り替えを検討し治療完遂率をあげることでSVR率の向上につながる事が示唆された。

10 ダグラタスビル/アスナプレビル療法 (DA) による肝炎・肝予備能改善効果の検討

阿部 聡司・石川 達・小島 雄一
堀米 亮子・佐野 知江・岩永 明人
関 慶一・本間 照・吉田 俊明

済生会新潟第二病院消化器内科

C型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法としてDAが使用可能なり、その長期的な発癌抑制、線維化改善効果の従来治療との比較は今後の課題であるが、治療早期の肝炎改善効果、肝予備能に与える影響につき従来治療と比較した。DAを導入された20症例の治療12週までのAST/ALT、Alb、T-Bil、PT-INR、抗ウイルス作用、副作用を検討した。シメプレビル療法 (SMV) 55症例を比較に用いた。両群の年齢、性別、AST、ALT、T-Bil、Pltで有意差がなく、DAでHCV-RNA量、Alb、Hbが低く、肝癌の既往が多かった。HCV-RNA、AST/ALTは治療早期より低下し、その程度、時期は同等であった。AlbはSMVで経時的な低下したがDAでは低下しなかった。T-BilはSMVで有意に増加しPT-INRは両群とも保持された。HbはSMVで有意に低下し33%にリバピリン減量を要したがDAでは低下しなかった。PltもSMVでのみ低下を認めた。DAはSMVと同程度の抗ウイルス作用を有し肝逸脱酵素改善も同等の経過を示し、肝予備能を低下させず治療を継続でき血球減少に乏しかった。長期的な発癌抑制効果などの問題はあがるが、DAは肝予備能を低下させず軽微な副作用で治療を継続できることが利点と考えられた。

11 C型肝炎に対するdirect acting antivirals (DAAs) 治療：HCV量減少遅延例

小方 則夫・岩崎 友洋・佐藤 聡史

労働者健康福祉機構燕労災病院
消化器内科

C型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法として、ダクラタスビル (DCV)・アスナプレビル (ASV)